

○11番（笠原幸江君）

ありがとうございました。私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本 剛です。

1回目の質問をさせていただきます。

1、高校を核とした地域人材育成について。

本年2月7日に地域や学校、企業など関係者が集まり、第20回教育懇談会が実施されました。市内3高校からも参加し、各校の特色を生かした学習成果の発表が行われました。以下、質問いたします。

(1) 現在行われている高校を核とした地域人材育成事業について、市はその成果をどのように考えているか伺います。また、今後の進め方について、どのように考えているか伺います。

(2) 教育懇談会の発表で、糸魚川高校生から高校生がバスガイドをしてはとの提案がありました。市に対してこんな施設が欲しいとか、こんなことをしてほしいではなく、自ら高校生に何ができるかという内容でした。そこで、この提案を実現させてあげたいと考えていますが、市長としての見解を伺います。

2、降雨災害に関する防災・避難等について。

昨年10月の台風19号では、能生及び早川地区に避難勧告が出されました。その後、昨年12月定例会では、各いろいろな議員から様々な質問が出されました。私も9月定例会の一般質問で避難について質問をさせていただきましたが、地球温暖化による降雨災害が現実味を増す中で改めて質問させていただきます。

(1) 昨年の台風19号での避難について伺います。

① 市が開設した避難所の数は何か所ですか。

② その避難所に避難した人数は何人でしたか。

③ 避難所の開設に関わった市職員の人数は、時間は、その費用は、どれだけでしたか。

④ 市が開設した避難所以外への避難人数を把握していますか。その実態を調査する必要を感じていますか。

(2) 市内に設置してある河川の水位計について伺います。

① 市内に設置してある水位計の状況はどうなっていますか。

② 今後、水位計を増設する計画はありますか。

③ 降雨時の河川監視で、この水位計で十分と考えていますか。

④ その他の方法、例えばカメラによる監視は考えていますか。

⑤ 河川の水位情報や堤防決壊などの市民への伝達方法に問題はないですか。

(3) ハザードマップの市民の認知状況について。

① 市民の認知度はどの程度と考えていますか。

② 認知度を上げるための方策を考えていますか。

(4) 大きな水害となった千曲川では、雨がやんでからの決壊でした。河川の長さによる時間差での増水が原因でした。そこで、当市の姫川、早川、能生川など、上流で降った雨が海に到達するまでの時間はどのくらいか伺います。

1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の質問につきましては、この後教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2 番目の1 点目の1 つ目と2 つ目につきましては、市内20 か所に避難所を開設し、1,344 人が避難をいたしました。

3 つ目につきましては、避難所開設、運営に関わった職員は67 人、勤務時間は延べ1,230 時間で、経費は358 万円であります。

4 つ目につきましては、各地区等で開設いただいた避難所は、振り返り調査で32 か所、239 人と把握いたしております。

2 点目の1 つ目につきましては、国や県が管理する市内河川に19 か所設置されております。

2 つ目につきましては、県管理河川で危機管理型水位計を6月の取水期までに4 か所、それ以降にさらに2 か所設置する予定であります。

3 つ目につきましては、国が管理する姫川では、従来の3 か所に加え、氾濫が発生しやすいと考えられる5 か所に追加設置をいたしております。

また、県においては、水位計が設置されていない河川への整備を進め、状況を見ながら、必要な箇所に随時設置していく、また充実を図っていくことといたしております。

4 つ目につきましては、姫川では16 か所に設置をされております。また、県管理河川では8 か所での設置が予定をされており、その後は、必要に応じて増設をする予定といたしております。

5 つ目につきましては、水位情報などを自分で確認できるホームページを周知するとともに、今後とも必要な情報を安心メールや防災行政無線、ホームページなどで周知してまいります。

3 点目につきましては、ハザードマップの認知度も高くなってきているものと考えておりますが、今後も出前講座や防災訓練、広報紙などで周知してまいります。

4 点目につきましては、姫川では、JR中土駅付近から河口まで約30キロメートルで、おおむね2時間とのことであります。また、早川では、焼山川と火打山川の合流地点から河口まで約14キロメートルで、おおむね1時間あります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

山本議員の1番目のご質問にお答えをいたします。

1点目につきましては、特色ある教育の充実に向けて3校との連携がさらに強化されたほか、産学官で高校の魅力ある学びの実現について語り合う対話と交流の場を新たに設置するなど、一定の成果を得たものと捉えております。今後は、地域との対話や協働実践を積み重ねながら、社会で活躍できる人材の育成に努めてまいります。

2点目につきましては、生徒の気持ちを大切に、提案の実現に向けて学校側と相談させていただいているところであります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

第20回の教育懇談会でしたけど、この間、高校生が参加したことってのは今回初めてなんでしょうか、その点をお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

教育懇談会の今までの中で、高校の教育について大人が語り合ったことはありましたけれども、先日の教育懇談会のような高校生が会場に来て大人と語り合うというのは今回が初めてであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私は、やはり20回の中で高校生が参加したというのは大いに意義があったというふうに考えております。今後もやっぱりそういうふうなことを考えてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先日の教育懇談会の中で教育長が挨拶の中で報告といたしますか、発表しましたああいった共同のスキームといたしますか、フローによって今後進めてまいりたいと考えておりまして、その中でやは

り教育の成果というものを当然地域の皆さんと、また、生徒本人も含めて共有していかなければいけないというふうに考えております。

ただ、一貫教育の教育懇談会ですので、高校だけというところは行かないかもしれませんが、今後また考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

懇談会ですのでいろんな議題があるかと思えます。高校生が入らないほうが良いような会議は当然あるかと思えます。でもやはり高校生の生の声を聞くというのは、すごく大事なことだと思いますので、これからのいわゆる懇談会あたりもその議題だとかその内容によっては一緒に参加させて、一緒に進めていくという形をとっていただきたいというふうに考えております。

次に、今の糸魚川高校生のいわゆるバスガイドの話で、すごく私自身も感心いたしました。実は、これ糸魚川高校で最初に行われて、それに我々総務文教常任委員会がその日にちょうど行事がありまして参加できませんでした。その後、糸魚川高校、市長あたりに宛てて、庁内で発表会をさせていただきました。それも私見学させていただきました。そして、今回の懇談会と。そのとき、市長といわゆる高校生が本当に、終わった後に、例えばタピオカのあるようなものを一緒に糸魚川にないかとか、そんな話もされたのを聞いておりました。実にいい機会だったというふうに思うんですけど、その点市長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々は、やはりこの学校教育のことに關しては、無関心では当然いられないわけでございまして、いろいろ想定をしながら、また、いろいろ知識をいただく中で対応してきましたが、直接やはり意見を聞くとまた、我々といたしましても、非常に新たな感動や、また感激をした部分がございます。そのように直接話すことの大切さというのを十分に認識をさせていただきました。そういう中で、これから、今議員ご指摘のように、機会を多くつくりながら、連携しながら、よりこの学校教育が前へ進んでいくような形をとっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

その中で、先ほど1回目の質問で言いましたが観光バスのガイド、実に面白い取組だというふうに考えております。ぜひともやっていただきたいと思うんですけど、ただいま学校との協議というお話でしたけど、行うためには数多くの問題があるかと思うんですけど、その問題点をどのように考えているか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

発表以来、高校のほうとも話をさせていただいております。先日、協働のフローではありませんが、やはり学校が地域に出て、高校生が地域に出て学ぶというのは非常に有効だというふうに考えております。学校もそういった意識を持っていただいているものというふうに考えております。ただ、学校のカリキュラムの中で行えるかどうかというのは非常に難しいところもあるんですけども、カリキュラムの中で行えない場合は、学外でも行えないかというところを今検討しているところなので、今後ちょっと学校と詳細を詰めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

このバスガイドに関して、先日、糸魚川タイムスに記者のアンテナということで、発表の中では、途中からですけど、市内の観光スポットなどを巡るツアーのガイドを高校生が行うという提案がありました。ガイドが高校生ということがポイントとするアピールに少しプラスしてイメージを広げってみました。例えば、着物姿でやってみてはどうか、英語での説明はどうか、若い人たちから着物のよさを知ってもらい、どんどん着て出かけてほしい。最近、外国からの観光客も多く、寺社や祭りの説明を英語でもできるようにしないと、いずれも取材を通じて聞いたそれぞれの関係者が抱える課題です。高校生ガイドがこの2つの課題解決にも同時に結びつくのではないかと思います。現実となって取材できる日が楽しみですというふうに言われています。まさに大きな波紋を広げたことなんだと思います。ぜひともやっていただきたいと思いますし、私は、いきなり、例えば観光バスでやるといっても営業面で、金の面だとかいろんなことが難しいと思います。そこで、私は、市の所有するバスで市民を対象にしたり、例えば小学生、中学生でも結構です。我々議員だとかそういうのも含めた市の職員を対象にでもいいかと思いますが、そうすることによってやれるんじゃないかというふうに考えるというか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、市のバスでもというご提案ですが、高校生にとっては、やはり本物に触れるというのは、非常に自分の刺激にもなったり、成長につながるものだというふうに思っていますので、やはりそういった場を提供するというのは大人の役割だというふうに思っています。やはりよりレベルの高い場を提供すべく、今後検討していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

観光の立場から補足をさせていただきます。

このアイデアをいただいた後、課の中でもいろいろ議論をしまして、例えば、バスツアーのガイドはもとより、例えばガーデン・ミュージアムのガイドですとか、あと、観光案内所でのガイドというのも考えられるねという話をしております。いずれにしても高校生が参加していただくことによって、また、同世代の方からも参加していただくという可能性も広がりますので、実現できるように期待しておるところでございますし、これができればいいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

当日のコーディネーターを努めました小見まいこ氏からも、この観光バスやるんだったら私乗ってみたいというふうな感想も出ておりましたので、ぜひともそんな感じで進めていただければというふうに思います。

人材育成事業ということなんですけど、人材育成というのはどのようにすれば一番いいかというふうにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

知識中心の教育から課題解決能力の育成というふうに教育も変わってきていると思います。そういった中で、今ほど山本議員おっしゃったような、高校生自らが地域の課題を発見して、それについて調査研究をする、さらに提案に結びつくというのは、まさに今私申し上げましたとおりの能力の開発につながるというふうに思っています。

そういった中で今回、なかなか今実現に至らないということなんですけども、ぜひともそうやって実現に至るように、今までの提案ですと、市にこうしたほうがいいのかという提案が多かったわけですが、自分事として捉えて、自分ならこうするという提案であったわけですね。そういったことをやっぱりしっかり受け止めて、実現に向けるように取り組んでいきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私は、人材育成とは、やはりやらせてみて、その中から1歩でも2歩でも前へ進んでいくということが人材育成だと思っています。よく議員になりましてから、庁内のいわゆる人材育成もあるんですけど、講習会を開いて参加させるとか、そういうことがあるんですけど、私は一番はやっぱりやる方がまだ未熟でも、その中で考えてやっていく上でじゃんじゃん段階的に人材としてなっていく

んだと思います。その点これはすごく面白い取組ですし、むしろ本当に糸魚川愛というか、そういうものにつながるものだと思ってます。ぜひともそういう感じでやっていただきたいというふうに思います。

今、ありがたいことに、やるという方向で進んでおるといことですので、今さらですけど、逆に言いますと、もしこの提案が実現されなければ、単に発表しただけで終わって、むしろ私マイナス面ではないかと思うんですね。自分たちでこんなことやりたかって手を挙げたんだけど、いやそれは大人の事情、いろんなところで、いいよそんなものはということになると、もうそれだけで、いわゆるその方が伸びなくなるし、むしろ市だとかそういうものに対して、何だ我々こんなこと言っただけで何もやらしてもらえないんだというほうが、むしろ大きいマイナス面になると思います。これは不信感だけが募って、むしろ本当に逆効果だと思います。私は、実行させることで、高校生が私たち大人と距離が縮み、そこに信頼感が生まれる、その信頼感がやはり糸魚川愛につながるというふうに思ってます。逆に提案させて、実行させなければ、今後こんな提案もしなくなることだと思います。ぜひともこの問題あると思いますが、実行に向けて努力していきたいというふうに思ってますし、私たち糸魚川高校の同窓会も、保護者会なんかも含めて働きかけて、ぜひとも実現させるようにしたいと思います。

現在、糸魚川高校の選抜志願者が160名の応募に対して117名でした、73%、白嶺が120に対して93.77%、この上越地域では安塚の普通科を抜かすと本当に2つが最低です。これやはりかなり糸魚川高校でいいますと魅力がなくなったというふうを感じざるを得ません。それこそ30年前になりますけど、平成の初めですね、私も柔道やっておりましたけど、10人に1人が直江津から通っておりました。実は、そのときは、押上駅ありませんでした。やはりちょうど平成3年ですけど、空手も柔道も全国大会へ出ましたし、その年の箏曲も全国でトップになって、東京での公演も行ってます。やはりそのときは、本当に10人に1人が直江津から来てました。私は、最近、本当に、糸魚川高校ですけど、ちょっと魅力はなくなってきてるんじゃないかなというふうに感じております。これは子を持つ父兄と話しましても、やはり糸魚川高校魅力ないよという言葉が出ております。ぜひともこれを機会に、そういうことをやらせることで、糸魚川高校の魅力をつくっていかないと、高校自体の存続も危ういんじゃないかなというふうに考えてます。ぜひともこれを、市も挙げて応援していきたいというふうに思ってます。よろしく願いいたします。

次に、降雨に関する防災のほうで、まず、避難所の開設に当たって本当にご苦労さまでした。多くの市職員が避難所の開設担っていただきました。これは、通常業務以外の仕事であり、昼夜にわたっての仕事であります。ここで、この作業には臨時職員が携わっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

避難所の開設作業には、臨時職員は携わっておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

正職員だけがということですけど、先ほどの中で67名、この中には、やはり小さな子供を持つ親もいるかと思えますし、1つの避難所にはやはり最低3人だと思うんですけど、男性もおれば女性もどうしても必要だと思うんですけどね、そこら辺りちょっと教えていただければと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

市民部を中心に男性、それから女性も含めて67名が従事しておりまして、ちょっと女性の比率がすぐは出ませんけども、3分の1程度は女性ではないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

男女平等とはいいいながら、やはり家庭のほうは女性がいないと、小さな子供のいる家庭は、お母さんがいなくなるというのは、丸一昼夜ですので、大変だったと思うんですけど、やはり私は、本当にご苦労さまとしか言いようがないんですけど。

次に、台風19号の対策本部会議の資料を見させていただきました。資料の中から、避難所を開設して利用した人が、特に勧告の出た早川では、避難所のあれですけど、藤のさとで13時に2名、17時に21名、20時に142名、23時に171名というふうに出ております。能生の生涯学習センターでは、13時にゼロ、17時に39名、20時に320名、そして23時に221名と、14時50分に大雨土砂警報が出てますし、16時11分に大雨警報（浸水害）が出ております。19時50分に大雨特別警報になっております。この数ですね、藤のさとで避難勧告出された人数の割合でいきますと43.3%になるんですかね。能生では15.6%、これ市の避難所に避難してきた方だと思うんですけど、それ以外の避難もかなりいるかと思うんですけど、その点把握してますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

それ以外で把握しておりますのは、市以外の設置した避難所に避難した人数でございまして、避難勧告が出ました新町の近くでは新道区民会館に7名、ただしこの方は新町の方かどうかは把握しておりません。それから、能生につきましては、それ以外の方については把握しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私は、市が開設する以外に、皆さんそれなりの避難してると思うんですけどね、やはりこれは把握しておく必要があるかと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

今回の台風19号の避難状況については把握をしておりますけれども、今後の災害にありましては、やはり避難所に避難するばかりが避難ではなくて、状況に応じまして、当然避難警戒レベル4、避難勧告が出ましたら全員避難でございますけれども、必ずしも市の避難所へ避難するばかりではなくて、最も安全が図れる場所、地域で開設した避難場所、あるいは知人宅、それから、外に出ることが危ないと、家にとどまることが最善であれば家の2階ないし安全な場所に避難するというのをこれからは十分啓発をしていきたいと思っております。ですから、今後の災害にありましては、そういったことも周知しながら、どういった避難行動を取ったかということもそれぞれまた振り返り調査などで把握するように努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私は、やっぱり避難とかそういうものは自助・共助・公助だと思うんですけど、どちらかというところは公助が優先され過ぎているというふうに感じてるんですけどね。というのは、今、コロナウイルスですけど、本当にいろんな面で、先ほど笠原議員からもありましたけど、また、例えばこの前の駅北大火のとき、市でも避難所を開設しましたが、わずか2日とか3日で避難所も閉鎖になりましたよね。皆さんそれは、この糸魚川はまだ、いわゆる人情があって、友達の家だとか親戚だとかそういうところに十分皆さんが避難していただけるんだと思うんです。でも東京あたりなり都会だとなかなかそれは無理なんじゃないですか。逆に言うと隣の人どこに住んでいるかも分かりません。身内も少ない、でもいわゆる都会的な避難所を地方にまで広げてきて、何か国民全部が避難というと公の避難所に行かなきゃいけないというふうに、余りにもそちらの方向に行き過ぎたんじゃないかというふうに考えてますけど、市長その点どのようなお考えありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もそのように思うわけではありますが、まずはやはり公の部分の精いっぱいスピーディーに取り

組むことも大切と思っております。その上で、また、今皆さんがこのお考えのように自助がまず第一、そして、ありとあらゆる災害に対して全て同じ避難所とか避難行動ではなく、その災害に応じて対応していくということをしかり皆さんで情報共有しながら、これからの避難に、訓練にまた生かしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

まさしくそうだろうと思うんですね。公として当然避難所は開設しなければいろんな責任問題もあるでしょうし、いろんなことがあるかと思えます。でも基本は私自助だと思うんですね。共助だと思うんですね。これもそう考えたときに、やはりその部分を把握しておかなきゃいけないと思うんですね。私は、台風19号のときの避難状況をやはりアンケートを取って確認しておく必要があるかと思うんです。それが次のステップにつながっていくんじゃないかと思えます。9月の質問のときには、雨が降り出す前に友人だとか親戚だとか、そちらに避難したらどうですかということも言いましたけど、それも含めて把握しておく必要があると思うし、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

台風19号の状況につきましては、災害対応が収まった段階で、各区長さんや自主防災組織のリーダーの皆さんに振り返りアンケートということでお願いしました。避難勧告出た時期、全員調査ということではなくて、これは、避難勧告以外含めまして、市内全域の区長さん方に振り返りのアンケートを取ったというものでございます。なかなか全住民の皆さんのアンケートというのは、取ることは困難だと思いますので、今後はそのときの災害の状況を見ながら、限られた地域であればそういったアンケートなり、訪問して聞き取りすることも可能だと思いますので、検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ぜひとも避難の状況をアンケートを取るなりしていかないと、本当の意味での避難につながらないんじゃないかと思うんです。ぜひとも前向きに検討していただければというふうに思います。

次に、河川計について。

いわゆる県のほうからこれからの増設も考えておると、カメラについても16か所、また県のほうで8か所というふうに伺いましたけど、お伺いしたんですけど、車か何かに移動式のカメラ持って行って監視したというふうに聞いたんですけど、それは実際でしょうか、19号のときですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

国のほうでは、今現在そういう移動式のカメラというのを既に所有をしておりますが、実際の運用といたしましては、災害が発生した後の事後観察、経過観察というところに主眼を置いておるそうです。今、委員おっしゃったような、実際に持って行って動かしたというのは、例えば市のほうもタブレットとかスマホとかでそういうパトロールに出る人間がそういう活動をしたかもしれないんですが、移動式のカメラの活用ということに関しては、国のほうとしても今やっていないということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、去年の12月に消防署の方にお願いしまして市内の水位計を見させていただきました。かなりの立派なものから、本当に簡易的な、橋の上にあるものから見させていただきました。

先日、あるテレビで、子供の勉強のことで習熟度の話のテレビ番組がありました。先生が書きながらとかするよりも動画を映すことで認知度がかかなり、習熟度がかかなり上がるというふうに聞いています。私も水位計を見させていただきまして、あれがどんだけの水位になったというよりも、テレビの報道でよく水位計のところに水が流れて上がってくるの见えますよね、あれでやっぱり皆さん危険度がかかなり、おっというふうに思うだと思んですけど、その点ではカメラが有効だと思んですけど、その点いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

河川を監視する上で、治水上の観点でいいますと水位計というものはやはり大切でございます。ただ、住民の皆さんが視覚的、感覚的にと申しましょか、そういう切迫感が伝わって、自ら判断して避難行動につながるという意味では、カメラによる同時配信といいますか、逐次配信される流れの状況というものの映像、そういうもので得られる情報の持つ意味は大きいものというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

車にですね、夜ですと投光器も要るかもしれません。でもカメラを置いてやることによって、離

れた場所で監視できますということでは、私かなりの効果あるというふうに思ってます。メンテナンスもそれほど要らないのかもしれませんが。常時置いておく監視カメラですとかなりの、やはりおてんとう様に当たって、劣化もするでしょうけど、いわゆるそういうふうな大雨警報だとか、例えば、波が荒くてかなりの高波のときも監視ができるかと思えます。ぜひともそういうことで、市のほうでそれなりのものを準備するのも重要だというふうに思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

この後のほうの質問のほうにも関連することですが、市内の河川は姫川、先ほど市長のほうから1時間、2時間というような答弁もありましたが、非常に急流な河川で、降雨から水位の上昇というのが一気にまいます。じゃあ実際、移動式のカメラを持ってどこに行くかと、そういう準備時間等を考えますと、また、準備してから水位が上がっておところにセッティングしに行くような、人間を近づけるといようなことを考えますと、国のほうでは、そういうことを考えると簡易式なカメラの設置の充実、そういうほうにシフトしていきたいんだというふうな答えをいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ぜひともそんな方向に進めていただければと思います。

糸魚川には能生のケーブルテレビもありますよね。逆に、そういうことに映すことによって、かなりやはり住民が危ないというふうに感じるんじゃないかと思えます。そうすることによって避難度が増すというふうに考えております。ぜひともそちらの方向で検討していただければと思います。

次に、ホームページとかインターネットでというんですけど、正直は話、若い方はもうスマホだとかああいうので情報を得られるかと思うんですけど、いわゆる60代、70代、その方はやはりその情報が得にくいと思うんですけど、それに対することを考えてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

おっしゃるように県の土砂災害情報システムですとか、ホームページ、スマホ等で見られるようになっております。確かに若い方はそういったものを見られるようになってるんですけども、そう

いったスマホやパソコンを持たない方はなかなかそういう情報に接することができないというものがございまして、その辺につきましても、やはり近隣の共助の中でこうだよというものを教えていただくような取組をしていただくような、そういった我々が出かけていって、出前講座の中でお願いするような取組もやっていきたいと思っておりますし、必要な、本当に危険が差し迫った情報につきましては、防災行政無線戸別受信機での放送でお知らせするように取り組んでまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

青海のほうで今たざわの輪というものができました。それ3つの部局に分かれまして防災関係があるんですけど、その中で、来年度ですかね、いわゆる班ごと、地区っていいまして、例えば須沢でいいまして800から900世帯あります。そういうんじゃなくて、今村新田が中心になりまして、今村新田は7班しかないんですね。1つの班がせいぜい多くて10から20ぐらい。その班にいわゆる出前講座を呼んで、皆さん自分の地域のいわゆる危険な場所はどうかということ今年計画してやろうとしてます。ぜひともそれを次の段階では同じ田沢の中で田海だ須沢だというふうに広げていかかと思っておりますけど、ぜひともこんな取組で、消防署も協力していただいて、やはり自分たちの目で見ることが大事だと思いますので、ぜひともお願いしたいと思っております。その点、消防長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

おっしゃられるような取組大変いいことだと思います。やはりある程度、隣近所の小さい単位で身の回り、近所を見て回って、危険箇所を把握する、それからハザードマップをご覧いただいて、どのような危険があって、どのような避難行動を取ればいいのかということをやったりそれぞれ各自、各戸の皆さんが考えていただくという取組で大変いい取組だと思いますので、私ども職員は積極的に参加していきたいと思っております。これを市内に広げるとなるとやはり、小さい単位でやるほど我々も職員が必要になります。限られた職員でありますので、今までも防災リーダー研修の中で図上訓練があり、そういった取組をやりましょうという訓練なり研修をやらせていただいております。これからは防災リーダー研修に出ていただきましたリーダーの皆さん、地域でそういった取組ができるように、そういった今回そちらでやっていただく取組を我々が講習会や研修の中で紹介する中で、各地域のリーダー、区長さん方が取り組めるような、そういった支援をやっていきたい。当然我々職員も出られるときには出ていって、指導なり一緒にどうしたらいいかということを読んで改善していくような取組にしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

次に、ハザードマップのほうですね。先ほどハザードマップも大分認識されてきたというんですけど、能生川のハザードマップも今年作るということで予算化され、盛り込まれました。また、台風19号では、ハザードマップの正確性が報道されております。もっと認知度を上げるためには、いかがでしょうか。シールなんかを作って、例えば、この家は土砂災害危険地域に入ってます。ここは浸水想定が3から5メートルですというようなシールを作って、各家庭の玄関に貼るとか、そういうことをすることによってかなり認知されるんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

ハザードマップの認知度につきましては、数字的なものは持っておりませんが、我々が研修会なり講習会、それから、出前講座に出かけていくときには必ずハザードマップを紹介しておりますので、大分認知は上がっておると思います。

ただ、問題だなと思うところは、ハザードマップをご覧になると自分のところが色が塗られてないと安心だというふうに思ってしまうという方もおられます。

ですから、特に津波等ですと色がなくても、想定外ということがあるから気をつけなくちゃいけないということも当然お伝えしてるんですけども、やはり常にハザードマップを持って行って、そういった出前講座なりをやる中で、PRなり啓発するのが一番有効だと思います。おっしゃるような取組も確かに面白いと思います。それもシールがなければ安全だというような誤解がないようなものを当然含めてやっていかななくちゃいけないと思います。そういった今のご提案の件も含めまして、今後どういったもので啓発していけばいいかというのは、常に研究して、改善していきたいと思っております。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ぜひとも前向きに検討していただければというふうに思います。

最後に、私、12月で長野の穂保地区にボランティアで行ってまいりました。町中が本当にほこりだらけでした。道路はちゃんと泥はよけてあるんですけど、端のほうにはやはり泥があって、車が通るとほこりが舞うような、やはりかなりの大変なことがありました。被災した方からいろんな話を聞き、それこそ雨がやんでから戻る途中に堤防が決壊してひどい目にあっただというようなことを聞いております。そんなことで、糸魚川ではそうあってはならないと思っています。ぜひとも前向きに、いろんなことを考えて、被災のないような地域にしていいただければと思います。

これで私の質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

昼食時限のため、13時まで暫時休憩いたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、滝川正義議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。〔6番 滝川正義君登壇〕

○6番（滝川正義君）

創生クラブの滝川正義です。

大きく3点について一般質問させていただきます。

まず、1点目ですが、今年開催されるオリンピック・パラリンピックに関して2点お尋ねいたします。

先般、オリンピックの聖火リレーのコースが公表されたわけですが、私はてっきり富山方面から上越方面へ国道8号線を聖火リレーしていくものと思っておりました。ところが、実際は、市役所から糸魚川駅までの約2.5キロ、時間にしましても35分余りのリレーということで、正直残念に思っております。そこで、いかがでしょうか。市が独自に公式の聖火リレーとは別に独自の聖火リレーを実施し、このオリンピックを祝い、市内全体で盛り上げてはどうでしょうか、伺います。

次に、オリンピックのようなビッグイベントが開催される際に懸念されるのがサイバー攻撃です。2月4日付の日本経済新聞によりますと、我が国の政府機関へのサイバー攻撃は1日で1億件に達する日もあるそうです。年100億件を超えとの政府関係者の話を載せておりました。今や日常的にサイバー攻撃を受けているわけですが、このような中でもオリンピックのようなビッグイベントではなおさら警戒が必要です。なぜかといいますと、オリンピック期間中は、サイバー攻撃を防御する人材が東京に集められることになり地方が手薄になります。ですから、地方自治体、あるいは地方の企業が最もターゲットになりやすいと思っております。

そこでお尋ねしますが、市のサイバー攻撃対策は現状どのようなになっているのかお聞きします。

次に、大きな2点目。危機管理対応についてお尋ねいたします。

まず、新型コロナウイルスの感染拡大への対応についてであります。

私は、このたびの新型コロナウイルスの感染拡大については、二重の意味で危機管理事案である